

## 学生の確保の見通し等を記載した書類

### 目次

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況	・・・	P. 2
ア 設置又は定員を変更する学科等を設置する大学等の現状把握・分析	・・・	P. 2
イ 地域・社会的動向等の現状把握・分析	・・・	P. 2
ウ 新設学科等の趣旨目的、教育内容、定員設定等	・・・	P. 3
エ 学生確保の見通し	・・・	P. 6
オ 学生確保に向けた具体的な取り組みと見込まれる効果	・・・	P. 14
(2) 人材需要の動向等社会の要請	・・・	P. 15
① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）	・・・	P. 15
② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものである ことの客観的な根拠	・・・	P. 16

## (1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

### ア 設置又は定員を変更する学科等を設置する大学等の現状把握・分析

本学は平成 28 年度（2016 年度）に公益財団法人大学基準協会による大学評価を受け、「大学基準協会の大学基準に適合している」との認定を受けた。現在は令和 5 年度（2023 年度）の受審に向けて公益財団法人大学基準協会に対し、種々の大学基礎データや自己点検評価報告書を作成しているところである。

この自己点検作業を通じ、特に本学大学院においては、既設の心理医療科学研究科心理医療科学専攻（前期課程）において 3 割程度の定員充足が見受けられるものの、その他いずれの研究科も定員が未充足であることを課題と考えている【資料 1】。

また、本学の収入の 8 割以上を学生納付金が占めており、補助金及び競争的資金の獲得が同規模の他私立大学に比べ十分とはいえない現状である。この点についても大学院を設置する大学として専任教員の研究業績を一層充実することなどにより、同規模の他私立大学と遜色のないレベルに底上げを行っていきたいと考えている。これ以外の点については、概ねあるべき大学の基準に適合していると自負している。

なお、本学の既設学部・学科（専攻）における学生確保の状況は、近年の少子化による 18 歳人口の減少に影響されることなく、これまでの間、全ての学部において、入学定員未充足となることなく推移しており、各年度による多少の増減はあるが、現在のところ広報・募集活動が及第点であると理解しており、いずれの学部においても収容定員充足に至っている状況である【資料 2】。

また、詳細は後述するが、本研究科設置に関するニーズ調査を行った結果からは、基礎となる学部である健康医療科学部健康栄養学科<sup>※</sup>の在学生などからの進学意向、受験意向及び入学意向が入学定員を上回る数値となっており、本研究科の設置に際しては、開設初年度から十分な定員充足が見込まれると考えている。

※ 健康医療科学部健康栄養学科は令和 6 年（2024 年）4 月に学生募集を停止し、新たに令和 6 年（2024 年）4 月開設にて食健康科学部健康栄養学科を届出設置予定（以下同）

### イ 地域・社会的動向等の現状把握・分析

設置の趣旨等を記載した書類中でも言及した通り、我が国では、急速に進む少子高齢化に伴い、年々増加する国民医療費などにより、医療・介護保険制度の財政的破綻が危惧されている。このような社会的背景の中で今後も安定的に医療・介護保険制度を持続させるには、未然に疾病を予防し国民の健康を保持・増進させること、要介護状態を防ぎ健康寿命を延伸すること、さらには、医療・介護サービスの質を高めつつ効率的に提供していくことが不可欠である。

この目的のために、過去 20 年ほどの間に我が国の医療や介護を取り巻く種々の施策が実施されてきた。平成 17 年（2005 年）には介護保険法が改正され、従来の介護給付と分けて要支援者への給付を「予防給付」として新たに創設し、予防重視型システムへの転換が図られた。平成 20 年（2008 年）には、メタボリックシンドロームなど生活習慣病の一次予防を重視した特定健康診査・特定保健指導が開始され、平成 23 年（2011 年）の介護保険法改正では、高齢者が地域で自立した生活を営むことができるよう、医療、介護、予防、住まい、生活支援サービスを切れ目なく提供する「地域包括ケアシステム」の実現をめざすこととなった。

栄養管理に関していえば、平成 18 年（2006 年）4 月に診療報酬改正が行われ、栄養サポートチームによる栄養管理が診療報酬として加算されるようになり、患者に対し多職種の専門家が連携しながら栄養管理を行う体制が構築されるようになった。これにより多職種連携による積極的な栄養管理が患者の在院日数を短縮させ、医療の効率化を促すことが実証されつつある。つまり、現在の医療・介護と栄養を取り巻く社会的要請としては、「高齢者が地域で自立した生活を営むために、栄養を含む医療や介護領域の多職種間の連携を強化してこれを支援する、そのことによって要介護状態に陥ることを防ぎ健康寿命を延伸する」ことにあるといえる。

上記に対応できる高度な専門職業人を養成するため、本研究科の設置を計画するところであり、高齢者が地域で自立した生活を営みながら健康寿命を延伸するため、栄養を含む医療や介護領域の多職種間の連携においてリーダーシップを発揮し、高潔な倫理観とともに高度な専門知識・能力を持つ高度専門職業人の養成を行うものである。

## ウ 新設学科等の趣旨目的、教育内容、定員設定等

### 1. 趣旨目的

健康栄養科学研究科の設置目的は、「高い倫理観を有し、栄養学を構成する人間、食物、環境、さらには栄養学に関連する臨床医学領域などの高度かつ先進的な知識や技術に基づいて、地域が抱える諸問題を多職種連携の中でリーダーシップを発揮しながら解決していく高度専門職業人の養成」である。

そして、教育研究上の修得目標、つまりはこれに準ずる学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）は次の通りである。

健康栄養科学研究科健康栄養科学専攻 ディプロマ・ポリシー（DP）

- ①（DP1）高度専門職業人として高い倫理観に裏打ちされたリーダーシップにより、社会に貢献しようとする態度を修得する。
- ②（DP2）栄養学を構成する人間、食物、環境、さらには栄養学に関連する臨床医学領域の高度な専門知識を修得する。
- ③（DP3）上記の知識を基盤として、栄養学に関わる問題点を自ら抽出して、科学的根拠に基づいて分析し、それを解決する能力を修得する。
- ④（DP4）自らの専門知識や技能を後世代に指導教授する能力を修得する。

本研究科において養成をめざす栄養学及びそれに関連する臨床医学領域の専門知識・能力を持つ高度専門職業人は、高齢者が地域で自立した生活を営みながら、健康寿命を延伸するための多職種間の連携推進などの諸課題解決に十分に貢献でき、かつ栄養を含む医療や介護領域の多職種間の連携においてリーダーシップを発揮し、少子高齢化が進む現在の社会において重要な役割を果たすことができると考えている。

なお、ここまで述べているような社会が直ぐ目の前まで来ていることは明らかであり、設置の趣旨等を記載した書類中でも言及した通りである。

### 2. 教育内容

本研究科の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー：CP）は、前述のディプロマ・ポリシー（DP）において示した 4 つの能力を修得する修士課程として、以下の通りに編成する。

健康栄養科学研究科健康栄養科学専攻 カリキュラム・ポリシー (CP)

- ① (CP1) 地域において他職種と積極的に連携する姿勢と対人技術（コミュニケーション能力や指導力）を修得する教育課程
- ② (CP2) 医療・介護・福祉等、人々の健康に密接する領域における高度な知識・技術を学び問題解決能力を修得する教育課程
- ③ (CP3) 栄養や食に関する高度な知識・技術を学び問題解決能力を修得する教育課程

この教育課程を「専門基礎科目」、「専門中心科目」及び「研究科目」の3つの基本的枠組みを以って、体系的に構成する。そして、学生の知的好奇心や将来設計・進路に応じたコースワークが可能な課程とする【資料3】【資料4】【資料5】。

### 3. 定員設定

今回認可申請を行う健康栄養科学研究科健康栄養科学専攻（修士課程）の入学定員は6人（収容定員は12人）と設定したが、これは競合すると考える愛知県内の他大学大学院（栄養学分野）の入学定員（【表1】参照）や在学生（基礎となる学部である健康医療科学部健康栄養学科<sup>※</sup>の学生（1年生～4年生）、卒業生（基礎となる学部である健康医療科学部健康栄養学科<sup>※</sup>の卒業生1期生及び2期生）及び社会人<sup>※1</sup>（本学卒業生の就職実績がある病院・クリニック、福祉施設及び企業など）を対象に実施した設置に関するニーズ調査結果などを参考に行った。

※1 卒業生で回答を得ている社会人は無効票として集計対象から除外（重複回答者の除外）

【表1】愛知県内の他大学大学院（栄養学分野）の入学定員と基礎となる学部の入学定員（令和4年度）

（単位：人）

学校名	研究科・学部名	専攻・学科名	入学定員
愛知学院大学大学院	心身科学研究科	健康科学専攻	10
愛知学院大学	心身科学部	健康栄養学科	80
金城学院大学大学院	人間生活学研究科	消費者科学専攻	8
金城学院大学	生活環境学部	食環境栄養学科	80
至学館大学大学院	健康科学研究科	健康科学専攻	10
至学館大学	健康科学部	栄養科学科	80
椙山女学園大学大学院	生活科学研究科	食品栄養科学専攻	6
椙山女学園大学	生活科学部	管理栄養学科	120
名古屋学芸大学大学院	栄養科学研究科	栄養科学専攻	5
名古屋学芸大学	管理栄養学部	管理栄養学科	160
名古屋経済大学大学院	人間生活科学研究科	栄養管理学専攻	10
名古屋経済大学	人間生活科学部	管理栄養学科	80
名古屋女子大学大学院	生活学研究科	食物栄養学専攻	6
名古屋女子大学	健康科学部	健康栄養学科	160
愛知淑徳大学大学院	健康栄養科学研究科	健康栄養科学専攻	6
愛知淑徳大学	健康医療科学部 <sup>※</sup>	健康栄養学科	80

上記内容は各大学公式ホームページより情報収集し、本学にて作成

#### 4. 入学金、授業料等の学生納付金の設定根拠

本研究科の学生納付金については、本学大学院の既設研究科の学生納付金【表2】と愛知県内の他大学大学院（栄養学分野）の学生納付金【表3】を総合的に勘案し、入学金を180,000円、授業料（年額）を600,000円、教育充実費（年額）を70,000円とした。

なお、本学園の財源の主要な部分は、国などからの補助金とともに、学生納付金であり、学生に対する良質な教育を提供・維持していくためには、本金額が妥当な金額であると考えられる。

【表2】本学大学院の既設研究科の学生納付金

(単位：円)

研究科名	入学金	授業料※ <sup>1</sup>	教育充実費※ <sup>1</sup>	初年次合計
文化創造研究科	180,000	550,000	50,000 (70,000) ※ <sup>2</sup>	780,000 (800,000)
教育学研究科		550,000	50,000	780,000
心理医療科学研究科		550,000 (600,000) ※ <sup>3</sup>	50,000	780,000 (830,000)
グローバル・コミュニケーション研究科		550,000	50,000	780,000
ビジネス研究科		550,000	50,000	780,000
健康栄養科学研究科	180,000 — ※ <sup>4</sup>	600,000	70,000	850,000 670,000

※1 授業料及び教育充実費は年額表示

※2 教育充実費の項中カッコ内の金額は「建築・インテリアデザイン専修」を履修する者が納入すべき額

※3 授業料の項中カッコ内の金額は「臨床心理学専修」を履修する者が納入すべき額

※4 本学の学部入学から8年以内（但し、編入学した学生は愛知淑徳大学学則第6条第2項に規定する在学年数以内）に本学大学院博士前期課程又は修士課程に入学するもの（年数には休学期間も含む）の場合は入学金免除

【表3】愛知県内の他大学大学院（栄養学分野）の学生納付金

(単位：円)

学校名	研究科名	専攻名	入学金	授業料	その他	初年次合計
愛知学院大学大学院	心身科学研究科	健康科学専攻	220,000	660,000	183,800	1,063,800
	(愛知学院大学卒業生が入学の場合)		110,000	660,000	183,800	953,800
金城学院大学大学院	人間生活学研究科	消費者科学専攻	200,000	570,000	61,750	831,750
	(金城学院大学卒業生が入学の場合)		100,000	570,000	51,750	721,750
至学館大学大学院	健康科学研究科	健康科学専攻	200,000	510,000	260,000	970,000
	(至学館大学卒業生が入学の場合)		0	510,000	260,000	770,000
椋山女学園大学大学院	生活科学研究科	食品栄養科学専攻	200,000	500,000	311,750	1,011,750
	(椋山女学園大学卒業生が入学の場合)		100,000	500,000	311,750	911,750
名古屋学芸大学大学院	栄養科学研究科	栄養科学専攻	100,000	765,000	190,000	1,055,000
	(名古屋学芸大学卒業生が入学の場合)		0	765,000	190,000	955,000
名古屋経済大学大学院	人間生活科学研究科	栄養管理学専攻	200,000	750,000	1,400	951,400
	(名古屋経済大学卒業生が入学の場合)		0	750,000	1,400	751,400
名古屋女子大学大学院	生活学研究科	食物栄養学専攻	200,000	560,000	220,000	980,000
	(名古屋女子大学卒業生が入学の場合)		100,000	560,000	220,000	880,000

学校名	研究科名	専攻名	入学金	授業料	その他	初年次合計
愛知淑徳大学大学院	健康栄養科学研究科	健康栄養科学専攻	180,000	600,000	70,000	850,000
(愛知淑徳大学卒業生が入学の場合※ <sup>1</sup> )			0	600,000	70,000	670,000

上記内容は各大学公式ホームページ及び大学ポートレート（日本私立学校振興・共済事業団）より情報収集の後、本学にて作成

※1 本学の学部入学から8年以内（但し、編入学した学生は愛知淑徳大学学則第6条第2項に規定する在学年数以内）に本学大学院博士前期課程又は修士課程に入学するもの（年数には休学期間も含む）の場合は入学金免除

## エ 学生確保の見通し

### A. 学生確保の見通しの調査結果

健康栄養科学研究科の基礎となる学部である健康医療科学部健康栄養学科※は、平成29年（2017年）4月に設置した本学の中では比較的新しい学科であるが、令和5年（2023年）2月現在までに既に2期分の卒業生を輩出しており、愛知県内を中心に一定の社会的認知及び評価を得ていると考えている【資料6】。

今回、基礎となる学部である健康栄養学科の在学生（1年生～4年生）と健康栄養学科の既卒生（卒業1期生及び2期生）、並びに本学卒業生の就職実績がある病院・クリニック、福祉施設及び企業などの社会人を対象に本研究科への進学意向に関するアンケート調査を以下の通りに実施した【資料7】【資料8】。

進学意向に関するアンケート調査のうち、在学生に対しては、各学年において健康医療科学部健康栄養学科※の必修科目として設定している授業内に当該科目担当の専任教員が調査票を配付する形式で調査を実施した。

既卒生及び社会人に対してのアンケート調査は、個別送付にて回答依頼を行った既卒生（卒業1期生及び2期生）と、本研究科卒業生の就職先として想定される医療機関・福祉施設などを本学卒業生の就職実績先から抽出し、本研究科卒業生の採用意向に関するアンケート調査と併せて依頼を行った。

なお、社会人に対しての進学意向に関するアンケート調査については、栄養学に関して興味があり、大学院での学び直し（リカレント教育）や向学心のある社会人が存在するであろうことを想定して実施したものである。

### 「健康栄養科学研究科健康栄養科学専攻（修士課程）」（仮称）設置に関するニーズ調査概要（進学意向に関するアンケート調査）

調査対象	在学生 健康栄養学科	卒業生 健康栄養学科	社会人
	1年生～4年生	2020年度卒業・2021年度卒業	
調査エリア	-	愛知県、岐阜県、三重県、その他	
調査方法	学内配付・回収	郵送調査	
調査対象数	334人	170人	620人
有効回収数	277人	42人	51人
(有効回収率)	82.93%	24.71%	8.23%
調査時期	2022年6月6日(月)～2022年6月30日(木)	2022年6月20日(月)～2022年7月29日(金)	
調査実施機関	株式会社 進研アド		

(a) アンケート調査の結果（【資料7】【資料8】を参照）

今回実施した、愛知淑徳大学大学院「健康栄養科学研究科健康栄養科学専攻（修士課程）」（仮称）設置に関するニーズ調査結果報告書【在学生対象調査】（【資料7】参照）によれば、本学健康医療科学部健康栄養学科\*の在学生1年生から4年生の回答において栄養学系統の大学院（修士課程）への進学意向として、「ぜひ進学したいと思う」と回答した人が6人（2.2%）、「機会があれば進学したいと思う」と回答した人が80人（28.9%）で、栄養学系統の大学院（修士課程）への進学意向のある者が86人いることが分かった。

新設研究科への受験意向としては「受験してみたいと思う」という回答が48人（17.3%）あり、入学意向として「合格したら入学したいと思う」という回答が42人（87.5%）あった。

前述の進学意向のある者86人のうち、入学意向のある者は38人（44.2%）で、予定している入学定員数6人を大きく上回る結果となった。

大学院（栄養学系統修士課程）に進学した場合、どのような分野を学びたいと思うか、興味のある学問分野を複数回答で聴取したところ、全体では「健康食事学」が67.9%と最も高い結果となった。

学年別（1～4年生）でみた受験意向については次の通りである。

4年生では受験意向がある者が17人（24.6%）、そのうち入学意向がある者が16人（94.1%）であった。3年生では受験意向がある者が4人（6.3%）そのうち入学意向がある者は1人（25.0%）であった。

なお、4年生では本研究科の特色に魅力を感じている回答者の入学意向は、いずれの特色でも23%を超えており、入学意向者数は予定している入学定員数6人を2倍以上も上回る入学意向が確認できた。

また、「ぜひ進学したいと思う」あるいは「機会があれば進学したいと思う」と回答した人の合計値を「進学検討者」とすると、4年生の進学検討者は24人（34.8%）、3年生は18人（28.1%）、2年生は17人（28.8%）、1年生は26人（31.0%）であった。  
注）学年未回答の1人を含めると進学検討者は、上記で述べた通り合計で86人となる。

愛知淑徳大学大学院「健康栄養科学研究科健康栄養科学専攻（修士課程）」（仮称）設置に関するニーズ調査結果報告書【社会人・卒業生対象調査】（【資料8】参照）では、栄養学系統の大学院（修士課程）への進学意向として、「ぜひ進学したいと思う」と回答した人が3人（3.2%）、「機会があれば進学したいと思う」と回答した人が34人（36.6%）と大学院への進学意向のある者が37人と一定数存在した。新設研究科への受験意向として「受験してみたいと思う」という回答が卒業生13人、社会人5人の計18人（19.4%）で、18人全員が入学意向として「合格したら入学したいと思う」という回答であった。また、進学意向のある者（＝進学検討者）37人のうち、新研究科へ入学意向のある者は卒業生12人、社会人4人の計16人（43.2%）で予定している入学定員数6人を大きく上回る入学意向者数であった。

入学希望時期とのクロス集計においては、進学意向がある者（＝進学検討者）のうち、受験及び入学意向がある者で、「2024年4月の入学を希望する」と回答した者が卒業生5人、社会人1人の計6人であった。受験及び入学意向がある者と入学希望時期とのクロス集計では、「2024年4月の入学を希望する」と回答した者が93人のうち7人（7.5%）、「2025年4月の入学を希望する」と回答した者が1人（1.1%）、「それ以降の入学を希望する」と回答した者が9人（9.7%）であった。

また、入学意向者が多く、特に人気のある分野は、「健康食事学」、「生活習慣病」、

「臨床栄養学」、「栄養教育論」、「地域栄養学」であり、新設研究科の特色に対する魅力度は、全ての項目において8割を超える結果であった。

本調査結果からは、直接的に本研究科への進学に繋がると考えられる本学健康医療科学部健康栄養学科\*の在學生及び卒業生の回答者からも本研究科への進学希望者が一定数あり、学生の希望する学びの分野と本研究科の趣旨目的における分野にも乖離はなく、入学定員6人は本研究科開設当初から継続的に入學生を確保することができるものと考えられる。

大学院への進学意向の調査項目(Q2)において、「大学院へぜひ進学したいと思う」もしくは「機会があれば進学したいと思う」と回答した者で、本学の大学院を受験し、合格したら入学したいと回答した者54人(内訳:在學生38人、卒業生・社会人16人)のうち、入学希望時期の調査項目(Q7)で「2024年4月の入学を希望する」と回答した者が、在學生(4年生)3人、卒業生5人、社会人1人であった。同項目(Q7)で「2025年4月の入学を希望する」と回答した者が、在學生(2年生)4人であった。さらに、同項目(Q7)で「それ以降の入学を希望する」と回答した者が、在學生19人(内訳:4年生7人、3年生1人、2年生2人、1年生9人)、卒業生6人、社会人3人という結果であった。

## (b) アンケート調査の概要(【資料7】【資料8】を参照)

### I. 調査目的

2024年開設予定の愛知淑徳大学大学院「健康栄養科学研究科健康栄養科学専攻(修士課程)」の設置構想に関して、在學生、社会人及び卒業生からの進学ニーズを把握する。

### II. 調査対象者

①本学健康医療科学部健康栄養学科\*(=基礎となる学部)に所属する在學生(1~4年生)

- 1) 依頼数:334人(有効回収数:277人[82.9%])
- 2) 調査期間:令和4年(2022年)6月6日~6月30日
- 3) 調査方法:学内配付・回収

②本学健康医療科学部健康栄養学科\*の既卒生(卒業1期生及び2期生)、本学卒業生の就職実績がある病院・クリニック、福祉施設及び企業などの社会人

- 1) 調査エリア:愛知県、岐阜県、三重県、その他
- 2) 依頼数:卒業生170人(有効回収数:42人[24.7%])  
社会人620人(有効回収数:51人[8.2%])
- 3) 調査期間:令和4年(2022年)6月20日~7月29日
- 4) 調査方法:郵送調査

### III. 調査実施機関

株式会社進研アド

### IV. アンケート調査の結果

#### ①在學生調査

##### 1) 回答者の属性

【全体】 277人(男性:7.6% 女性:92.1%) 未回答:1人

【学年別】 4年生:24.9%(69人) 3年生:23.1%(64人)

2年生:21.3%(59人) 1年生:30.3%(84人) 未回答:1人

##### 2) 大学院への進学意向

【全体】 「ぜひ進学したいと思う」:2.2%(6人)



「機会があれば進学したいと思う」：28.9% (80人)

【学年別】 進学検討者<sup>※1</sup> 4年生：34.8% (24人) 3年生：28.1% (18人)  
2年生：28.8% (17人) 1年生：31.0% (26人)

※1 進学検討者 …「ぜひ進学したい」あるいは「機会があれば進学したいと思う」と回答した人

3) 興味のある学問分野【全体】

「健康食事学」：67.9% 「生活習慣病」：41.5% 「臨床栄養学」：38.3% など

4) 特色に対する魅力度【全体】

全項目において8割を超える結果

5) 受験意向・入学意向

【全体】

「受験してみたいと思う」：17.3% (48人)

「受験してみたいと思う」と回答した48人のうち、「入学したいと思う」：  
87.5% (42人)

回答者全体 (277人) に対する入学意向者<sup>※2</sup>：15.2% (42人)

※2 入学意向者 …「受験してみたいと思う」と回答し、かつ「入学したいと思う」と回答した人

【学年別】

4年生

「受験してみたいと思う」：24.6% (17人)

「受験してみたいと思う」と回答した17人のうち、「入学したいと思う」：  
94.1% (16人)

回答者全体 (69人) に対する入学意向者：23.2% (16人)

3年生

「受験してみたいと思う」：6.3% (4人)

「受験してみたいと思う」と回答した4人のうち、「入学したいと思う」：  
25.0% (1人)

回答者全体 (64人) に対する入学意向者：1.6% (1人)

2年生

「受験してみたいと思う」：15.3% (9人)

「受験してみたいと思う」と回答した9人のうち、「入学したいと思う」：  
77.8% (7人)

回答者全体 (59人) に対する入学意向者：11.9% (7人)

1年生

「受験してみたいと思う」：21.4% (18人)

「受験してみたいと思う」と回答した18人のうち、「入学したいと思う」：  
100.0% (18人)

回答者全体 (84人) に対する入学意向者：21.4% (18人)

6) 進学意向別の入学意向

【全体】

「ぜひ進学したい」あるいは「機会があれば進学したいと思う」と回答した人  
(進学検討者：86人) のうち、入学意向：44.2% (38人)

【学年別】

4年生

「ぜひ進学したい」あるいは「機会があれば進学したいと思う」と回答した人  
(進学検討者：24人) のうち、入学意向：54.2% (13人)

3年生

「ぜひ進学したい」あるいは「機会があれば進学したいと思う」と回答した人  
(進学検討者：18人) のうち、入学意向：5.6% (1人)

2年生

「ぜひ進学したい」あるいは「機会があれば進学したいと思う」と回答した人  
(進学検討者：17人)のうち、入学意向：41.2% (7人)

1年生

「ぜひ進学したい」あるいは「機会があれば進学したいと思う」と回答した人  
(進学検討者：26人)のうち、入学意向：65.4% (17人)

7) クロス集計

【全体】

進学意向×入学希望時期

「2024年4月の入学を希望する」：9人

「2025年4月の入学を希望する」：7人

「それ以降の入学を希望する」：19人

回答者全体 (277人) に対する受験意向×入学意向×入学希望時期

「2024年4月の入学を希望する」：10人

「2025年4月の入学を希望する」：7人

「それ以降の入学を希望する」：21人

【学年別】

4年生

進学意向×入学希望時期

「2024年4月の入学を希望する」：3人 (5人中、3人 [60.0%])

「2025年4月の入学を希望する」：0人

「それ以降の入学を希望する」：7人 (9人中、7人 [77.8%])

回答者全体 (69人) に対する受験意向×入学意向×入学希望時期

「2024年4月の入学を希望する」：4人 (69人中、4人 [5.8%])

「2025年4月の入学を希望する」：0人

「それ以降の入学を希望する」：8人 (69人中、8人 [11.6%])

3年生

進学意向×入学希望時期

「2024年4月の入学を希望する」：0人

「2025年4月の入学を希望する」：0人

「それ以降の入学を希望する」：1人 (5人中、1人 [20.0%])

回答者全体 (64人) に対する受験意向×入学意向×入学希望時期

「2024年4月の入学を希望する」：0人

「2025年4月の入学を希望する」：0人

「それ以降の入学を希望する」：1人 (64人中、1人 [1.6%])

2年生

進学意向×入学希望時期

「2024年4月の入学を希望する」：1人 (1人中、1人 [100.0%])

「2025年4月の入学を希望する」：4人 (8人中、4人 [50.0%])

「それ以降の入学を希望する」：2人 (2人中、2人 [100.0%])

回答者全体 (59人) に対する受験意向×入学意向×入学希望時期

「2024年4月の入学を希望する」：1人 (59人中、1人 [1.7%])

「2025年4月の入学を希望する」：4人 (59人中、4人 [6.8%])

「それ以降の入学を希望する」：2人 (59人中、2人 [3.4%])

1年生

進学意向×入学希望時期

「2024年4月の入学を希望する」：5人 (6人中、5人 [83.3%])

「2025年4月の入学を希望する」：3人 (3人中、3人 [100.0%])

「それ以降の入学を希望する」：9人 (11人中、9人 [81.8%])

回答者全体（84人）に対する受験意向×入学意向×入学希望時期  
「2024年4月の入学を希望する」：5人（84人中、5人〔6.0%〕）  
「2025年4月の入学を希望する」：3人（84人中、3人〔3.6%〕）  
「それ以降の入学を希望する」：10人（84人中、10人〔11.9%〕）

## ②卒業生・社会人調査

### 1) 回答者の属性【全体】

93人（男性：23.7%（22人） 女性：75.3%（70人） 未回答：1人）

年齢 20代：54.8% 30代：15.1% 40代：14.0% など

最終学歴 4年制・6年制大学卒：83.9% など

勤務地 愛知県：69.9% など

勤務先 福祉施設：30.1% クリニック：21.5% 病院：19.4% など

保有資格 管理栄養士：60.2% 栄養士：44.1% など

実務経験 1年未満：34.4% 10年以上：34.4%

1年以上3年未満：15.1% など

### 2) 大学院への進学意向【全体】

「ぜひ進学したいと思う」：3.2%（3人）

「機会があれば進学したいと思う」：36.6%（34人）

※1 進学検討者…「ぜひ進学したい」あるいは「機会があれば進学したいと思う」と回答した人

### 3) 興味のある学問分野【全体】

「健康食事学」：51.6% 「生活習慣病」：47.3% 「臨床栄養学」：35.5%

### 4) 特色に対する魅力度【全体】

全項目において8割を超える結果

### 5) 受験意向・入学意向【全体】

「受験してみたいと思う」：19.4%（18人〔卒業生13人、社会人5人〕）

「受験してみたいと思う」と回答した18人のうち、「入学したいと思う」：  
100.0%（18人〔同上〕）

回答者全体（93人）に対する入学意向者※2：19.4%（18人〔同上〕）

※2 入学意向者…「受験してみたいと思う」と回答し、かつ「入学したいと思う」と回答した人

### 6) 進学意向別の入学意向【全体】

「ぜひ進学したい」あるいは「機会があれば進学したいと思う」と回答した人

（進学検討者：37人）のうち、入学意向：43.2%（16人〔卒業生12人、社会人4人〕）

### 7) クロス集計【全体】

進学意向×受験意向×入学意向×入学希望時期

「2024年4月の入学を希望する」：6人（卒業生5人、社会人1人）

「それ以降の入学を希望する」：9人（卒業生6人、社会人3人）

受験意向×入学意向×入学希望時期

「2024年4月の入学を希望する」：7人

「2025年4月の入学を希望する」：1人

「それ以降の入学を希望する」：9人

上記の調査結果が示す通り、在学生、卒業生及び社会人を対象に実施した進学意向に関するアンケート調査結果としては、本研究科の入学定員6人を開設年度においても、それ以降の年度においても学生を確保できる客観的な数値が得られており、本研究科の設置に特段の問題はないものと考えている。

## B. 新設学部等の分野の動向

日本私立学校振興・共済事業団が令和4年度（2022年度）に実施した学校法人基礎調査の結果を基にまとめた「令和4（2022）年度私立大学・短期大学等入学志願動向」など

によると、家政学系統の修士課程及び博士前期課程（専門職学位課程含む）の研究科数、入学定員、志願者数、入学者数及び入学定員充足率の推移は、以下の通りであり、これによれば、入学定員充足率は他分野に比べ下回っているものの、令和2年度（2020年度）から令和3年度（2021年度）は5.95ポイント、令和3年度（2021年度）から令和4年度（2022年度）は5.64ポイントといずれも前年度に比べて入学定員充足率が上昇していることが確認でき、志願者及び入学者とともに増加傾向であることが確認できる【表4】。この分野動向からも本研究科が属するであろう家政学分野の志願者数、入学者数及び入学定員充足率が上昇していることが明確であり、本研究科の定員充足においても十分な見込みがあると判断している。

【表4】家政学系統の修士課程及び博士前期課程（専門職学位課程含む）の研究科数、入学定員、志願者数、入学者数及び入学定員充足率の推移

年度	集計研究科数	入学定員(人)	志願者数(人)	入学者数(人)	入学定員充足率(%)
平成30年度	34	539	365	257	47.68
令和元年度	34	539	298	208	38.59
令和2年度	34	522	293	177	33.91
令和3年度	34	567	341	226	39.86
令和4年度	35	567	383	258	45.50

「2. 主な研究科別の志願者・入学者動向（大学院）」の「（1）修士課程及び博士前期課程、専門職学位課程」の各年度集計より（日本私立学校振興・共済事業団「私立大学・短期大学等入学志願動向」）

### C. 中長期的な18歳人口の全国的、地域的動向等

株式会社リクルートにおける高校生や高等教育の調査研究機関であるリクルート総研が文部科学省の学校基本調査を基にした「マーケットリポート」によれば、今後全国の18歳人口は、令和7年（2025年）に前年の令和6年（2024年）より2.8万人増加に転じた後、経年的に低減していくものの、しばらくの間は100万人台を維持していくことが確認でき、東海4県（愛知県、岐阜県、三重県、静岡県）における分析によると、令和3年（2021年）から令和15年（2033年）までの12年間で全国の減少率11.1%を2.3ポイント上回る（減少率13.4%）が、本学の在籍者の3/4を占める愛知県のみで比較した場合には、令和3年（2021年）を指数100%として比較した令和15年（2033年）時点の指数は91.7%であり、全国の指数88.9%を2.8%上回る数値となっている

#### 【資料9】【資料10】。

このことから本学が対象と考える18歳人口の中長期的な展望は、多少の経年減少はあれども、全国的に見ても安定した状況が継続すると考えることができ、学生確保も同様に安定的・継続的に見込むことができるといえる。

また、東海4県の大学進学率（現役）の数値は、平成24年（2012年）から令和3年（2021年）までの間、若干の波はあるものの愛知県は3.3ポイント、岐阜県は4.6ポイント、三重県は1.1ポイント、静岡県は1.9ポイントそれぞれ上昇しており、短期大学や専門学校との進学率とは一線を画して上昇傾向を維持しており、将来的に考えると本研究科の志願者確保にまで影響するであろう当地域の大学進学率が安定的な状況がしばらく継続すると考えられることから、本研究科をめざす学生が今後一定程度は存在すると思料するところである【資料10】。

上記の他に、「A. 学生確保の見通しの調査結果」において述べた通り、本研究科においては、卒業生及び社会人からの進学意向もある程度想定できる調査結果が出ている

ことからも入学者を確保できると考えている。

#### D. 競合校の状況

本研究科の競合校は進学意向に関するアンケート調査において、近隣の類似する大学院（専攻）として挙げた5つの大学院（研究科）に、同じ愛知県下に設置されている同分野（＝栄養学分野）の研究科を保持する2大学院（研究科）を加えた7大学院（研究科）を競合校と想定しており、これら競合校の状況は【表1】及び【資料11】の通りである。

競合する他大学大学院（栄養学分野）の志願者数、学生数及び定員充足率の状況を分析すると、年度ごとで増減は多少あり、各校によって状況は様々ではあるが、本分野に一定の需要が継続的にあることがわかる。特に本研究科を設置する長久手市に隣接する日進市に同分野の研究科を設置している名古屋学芸大学大学院や愛知学院大学大学院において、途切れなく学生が在籍していることが確認でき、地理的条件から考察してもある程度の需要が存在するといえる。

#### E. 既設学部等の学生確保の状況

既設研究科の定員充足状況は、【資料1】の示す通りであるが、前述の本研究科設置に関するニーズ調査の結果などからもわかるように、本研究科の学生確保は可能であると考えている。

なお、継続的な学生確保や定員充足に向け、本学企画室やアドミッションセンターと連携を取り、広報活動の強化などをより一層取り組む予定である。

#### F. その他、申請者において検討・分析した事項

(a) 研究科を設置していない愛知県下の家政系学部と入学定員など

愛知県下において、大学院研究科（栄養学分野）を設置していない家政系学部を設置する大学は以下の通りである【表5】。入学定員ベースでは合計360人の卒業生が、その後就職あるいは進学を志すこととなるだろうが、各大学公式ホームページを確認すると、大学卒業後に一部の学生が他大学大学院へ進学していることが認できた【表5】。

つまり、この中にも本研究科を希望することとなる潜在的な学生が存在するといえる。

【表5】 研究科を設置していない愛知県下の家政系学部と入学定員など (単位：人)

学校名	学部名	学科名	入学定員	大学院進学者 (2022年3月卒業生)
愛知学泉大学	家政学部	管理栄養学科	80	なし
修文大学	健康栄養学部	管理栄養学科	80	あり
東海学園大学	健康栄養学部	管理栄養学科	120	あり
名古屋文理大学	健康生活学部	健康栄養学科	80	なし

上記内容は各大学公式ホームページより情報収集し、本学にて作成

(b) 愛知県下の栄養士養成施設及び管理栄養士養成施設

愛知県には、専門学校以外の栄養士養成施設及び管理栄養士養成施設が本学（健康医療科学部健康栄養学科<sup>※</sup>）を含め13大学4短期大学（17課程）設置されている【資料12】。栄養学を主として臨床医学領域などを加え多角的・包括的に健康にアプローチする本学の健康栄養科学研究科は愛知県下の他大学大学院（栄養学分野）とは一線を画すと自負しており、

この学びに関心・興味を持つ志願者は、本学在学学生、卒業生以外にも存在すると考えている。

(c) 愛知県下の栄養士養成施設及び管理栄養士養成施設

「栄養学雑誌」(2019年 77巻 Supplement p. S15-S25)に掲載されている「管理栄養士・栄養士養成施設における導入教育、専門性を高める教育内容および進路との関連」によると、管理栄養士養成課程における平成28年度(2016年度)卒業生(=4年生)の進路調査において、「栄養関連大学院への進学」が1.1%であったことが報告されており、このことから栄養学分野の大学院への進学者が存在していることがわかり、本研究科を希望する潜在的な学生が全国的にも存在することがいえる【資料13】。

上記(a)～(c)を勘案しても、本研究科を希望するであろう志願者が少なからず期待できると考えている。

## オ 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

健康栄養科学研究科の学生確保に向けては、本研究科独自のPRとともに、基礎となる学部である健康医療科学部健康栄養学科\*と併せたPRや大学院の全研究科としての組織的なPRも行う予定である。

いずれにせよ積極的な取り組みを展開していくことにより、志願者の獲得(学生の確保)を精力的に行いたいと考えている。

### A. ホームページにおける告知及び広報活動

従来から既設研究科の情報を本学公式ホームページ(<https://www.aasa.ac.jp/>)で掲載しているが、本研究科の専用ホームページを新たに開設し、その内容を精査し既設研究科を含め、さらに魅力的なホームページ制作を行っていく予定である。

また、必要に応じて教育関係業者が運営・展開する大学院研究科へ進学を希望する方向けのホームページ内に、本研究科を紹介する情報ページを掲載することも検討する。

### B. 専用リーフレット、大学院パンフレットなど雑誌媒体の作成

- (a) 本研究科の基礎となる学部である健康医療科学部健康栄養学科\*の在学学生(1～4年生)、既卒生(卒業1期生及び2期生)、本学卒業生の就職実績がある病院・クリニック、福祉施設及び企業などに配付する健康栄養科学研究科に関するニーズ調査用リーフレットを、4,000部作成した(令和4年(2022年6月上旬～7月下旬に配付)。
- (b) 毎年、大学院研究科の募集案内のため全研究科の情報を掲載した「大学院パンフレット」を作成しており、新研究科の情報を含めたパンフレットを、令和5年(2023年)7月頃を目途に2,500部作成する予定である(但し、設置認可申請の状況により、初年度のみ分冊にする可能性もある)。

### C. オープンキャンパスなどの学内イベントの開催

本学では例年、6月(春)に1日、7月(夏)に2日間、9月(秋)に1日の年間4日間において、学部(学士課程)を中心にオープンキャンパスを実施している。令和5年(2023年)においても、例年通りに以下の日程で年3回(計4日間)の実施を予定している。実施内容としては、学部・学科(専攻)紹介や施設見学、各種個別相談などを行っているが、本研究科についても基礎となる学部である健康医療科学部健康栄養学科\*と共

同ブースにて共催を予定している（既設研究科も同様）。

また、上記以外に本研究科を含む全研究科において、別途大学院進学を目指す方向けの個別進学相談会を適宜実施する予定である。

令和5年度（2023年度）オープンキャンパス日程

第1回：6月11日（日）9:30～14:30

第2回：7月22日（土）、7月23日（日）9:30～15:00

第3回：9月17日（日）9:30～14:00

#### D. 本学卒業生への積極的広報活動

本学同窓会（淑楓会）に協力を求め、毎年9月中～下旬に開催される同窓会ホームカミングパーティーや年間で適宜開催される集いの場において、本研究科を含む全本学研究科の長期履修制度や社会人入試制度などの広報を積極的に行うなど、学生確保の取り組みを強化する予定である。

#### E. 雑誌、公共交通機関における広告及び新聞、SNSによる広報活動

本研究科の基礎となる学部である健康医療科学部健康栄養学科\*や既設研究科とともに連合広告をはじめとする雑誌、新聞広告媒体などに掲載を図り、広く一般社会への認知度を高める予定である。

また、本学が公式に開設しているInstagramやLINEなどのSNSを利用した広報活動も併せて行っていく。

#### F. その他

公益社団法人愛知県栄養士会や本研究科の基礎となる学部である健康医療科学部健康栄養学科\*の臨地実習先施設を中心とした愛知県内の病院・クリニック、福祉施設及び食品関連企業に対して、前述と同様に長期履修制度や社会人入試制度などのPRを積極的に行い学生確保につなげたいと考えている。

## （2） 人材需要の動向等社会の要請

### ① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

本学の理念である「違いを共に生きる」を健康・医療の分野で実現すべく、平成22年（2010年）設置された健康医療科学部は、「高齢者や障がいのある人をはじめ、全ての人の生活の質を向上することに貢献し得る人材、さらに良い人間関係を築くための対人技術および他者への理解と尊重を有する人材の育成」を掲げ、この間に学科増設などを経て現在に至っている。

そしてこの度、大学創設50周年を迎える令和6年（2024年度）4月にその記念事業の一環として、既設の健康医療科学部医療貢献学科（言語聴覚学専攻、視覚科学専攻）に理学療法学専攻（仮称）と臨床検査学専攻（仮称）を新增設するとともに、健康栄養学科\*を食健康科学部（仮称）として独立学部へ改組し、健康栄養学科（仮称）と食創造科学科（仮称）の2学科体制とすることを構想している【資料14】。

また、平成25年（2013年）に開設された愛知淑徳大学健康・医療・教育センター（通

称：アースメック）では、愛知淑徳大学クリニック、心理臨床相談室、健康相談室及び言語聴覚室の大学付設の各施設と心理医療科学研究科や健康医療科学部、心理学部が密接に連携し、教育・研究と地域貢献の両面から、地域医療や予防医療などにも先駆的に取り組んできた（このうち、愛知淑徳大学クリニックでは眼科をはじめ、耳鼻咽喉科、心療内科・精神科、内科・糖尿病内科、整形外科・リハビリテーション科の診療を行っており、小児から成人、高齢者まで、幅広い年齢層の医療に貢献して現在に至っている）。

さらに、地域・社会的動向などについては、前述した通り、現在の医療・介護と栄養を取り巻く社会的要請として、「高齢者が地域で自立した生活を営むために、栄養を含む医療や介護領域の多職種間の連携を強化してこれを支援する、そのことによって要介護状態に陥ることを防ぎ健康寿命を延伸する」ことが叫ばれており、これに対応できる人材の養成が本研究科の設置の目的であると考えている。

以上のような背景から、「高齢者が地域で自立した生活を営むために、栄養を含む医療や介護領域の多職種間の連携を強化してこれを支援する、そのことによって要介護状態に陥ることを防ぎ健康寿命を延伸する」という社会的要請に応えるため、高齢者が地域で自立した生活を営みながら健康寿命を延伸するため、栄養を含む医療や介護領域の多職種間の連携においてリーダーシップを発揮し、高潔な倫理観とともに高度な専門知識・能力を持つ高度専門職業人の養成を行うべく、本学大学院に健康栄養科学研究科を設置することとした。

## ② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

### 1. 特定非営利活動法人日本栄養改善学会 平成 30 年度管理栄養士専門分野別人材育成事業「教育養成領域での人材育成」報告書（平成 31 年 3 月）について

特定非営利活動法人日本栄養改善学会では、平成 30 年度（2018 年）に厚生労働省からの委託を受け、「多様な社会ニーズに対応できる管理栄養士・栄養士像の提示」及び「管理栄養士・栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラムの作成」について検討し、報告書をまとめている。この報告書の中で、管理栄養士としての専門性の高度化という観点から、大学院における学修の基本、特に重要と考えられるコンピテンシー（業務遂行能力）、それに必要な教育内容を例示的に整理している。そして、大学院における学修の基本として、「栄養学を基盤とした専門性の高度化と実践」、「論理的思考の涵養とリサーチマインドに立脚した課題解決」、「多様な対象・職種・組織の理解と柔軟な対応」を挙げ、それぞれについて特に重要なコア・コンピテンシーを説明している。その中で、「多様な対象・職種・組織の理解と柔軟な対応」に関しては、「生活者としての個人への共感と理解を深める多様な経験に基づき、論理的なプロセスを経て、対象者や地域に寄り添った行動をする」、「他職種との連携・協働のための基盤を構築し、職業及び組織倫理を踏まえた行動をする」、「組織や地域などにおける資源を把握し、経営的な視点を持ちながら、評価を含めたマネジメントに必要な能力を高める」と明示されている。

上記の報告書が示す内容は、本研究科の設置の目的である「高齢者が地域で自立した生活を営みながら健康寿命を延伸するため、栄養を含む医療や介護領域の多職種間の連携において、リーダーシップを発揮し、高潔な倫理観とともに高度な専門知識・能力を持つ高度専門職業人を養成する」ことと合致するところであり、社会的要請の根拠といえる。



出典：特定非営利活動法人日本栄養改善学会 平成30年度管理栄養士専門分野別人材育成事業「教育養成領域での人材育成」報告書（平成31年3月）  
[https://jsnd.jp/img/H30\\_houkoku\\_all4.pdf](https://jsnd.jp/img/H30_houkoku_all4.pdf)

## 2. 特定非営利活動法人日本栄養改善学会 令和2年度管理栄養士専門分野別人材育成事業「教育養成領域での人材育成」報告書（令和3年3月）について

特定非営利活動法人日本栄養改善学会では、令和2年度（2020年度）に厚生労働省からの委託を受け、地域の栄養課題の解決に資する管理栄養士等の育成に向けた実態把握、課題整理及び教育プログラムの作成事業を実施し、報告書をまとめている。この事業の中で、自治体の行政栄養士を対象とした調査（インターネット調査：1,286人回答）及び食関連企業を対象とした調査（14企業へのグループインタビュー）を行っている。この報告書において、自治体の行政栄養士を対象とした調査結果に関しては、「所属や勤務年数だけでなく、最終学歴と高いコンピテンシーとの関連が示唆されたため、大学院教育におけるアドボカシー能力をはじめとする総合力を高めるための発展型統合学習の重要性が示唆された」と考察している。食品関連企業の調査でも、大学院修了生は考察力が優れているとの意見があり、「栄養学の専門性を実務にどのように生かすか、どのようにつながられるかを考え企画し実行する総合力が必要で、そのために必要な、経営やマーケティングの知識、交渉力、マネジメント力は、行政で食環境整備に取り組む上でも必要な力であるが、学部レベルだけの修得は難しく、大学院レベルでの高度人材養成の必要性を示唆するものである」としている。

つまり、上記の報告書が示しているのは、全国的に管理栄養士や栄養士の大学院進学必要性が高まってきているということである。

出典：特定非営利活動法人日本栄養改善学会 令和2年度管理栄養士専門分野別人材育成事業「教育養成領域での人材育成」報告書（令和3年3月）  
[https://jsnd.jp/img/00\\_Reiwa\\_2nen\\_houkokusho\\_all.pdf](https://jsnd.jp/img/00_Reiwa_2nen_houkokusho_all.pdf)

## 3. 企業等への採用意向に関するアンケート調査

健康栄養科学研究科における人材需要の見通しを測定するため、本学卒業生の就職実績がある病院・クリニック、福祉施設及び企業に対して、本学健康栄養科学研究科卒業生の採用意向などに関して、アンケート調査を以下の通りに実施した【資料15】。

### 愛知淑徳大学に関するニーズ調査概要（採用意向に関するアンケート調査）

調査対象	企業・医療施設等の採用担当者
調査エリア（発送エリア）	愛知県、岐阜県、三重県、東京都、その他
調査方法	郵送調査
調査対象数	依頼数
	1,842企業・施設
	回収数
	459企業・施設
	回収率
	24.92%
調査時期	2022年6月20日（月）～2022年7月29日（金）
調査実施機関	株式会社 進研アド

今回実施した、愛知淑徳大学に関するニーズ調査結果報告書【企業・医療施設等対象調査】全体結果集計版（【資料 15】参照）によれば、回答者の人事採用への関与度を聞いたところ、「採用の決裁権があり、選考に関わっている」人は 28.1%、「採用の決裁権はないが、選考に関わっている」人が 58.4%と、採用や選考に関わる人事担当者からの意見を聴取できていると考えられる。

また、回答企業・施設の本社所在地は、「愛知県」が 61.4%で最も多く、愛知淑徳大学の所在地である地元エリアの企業・施設に意見を聴取できていると考えられる。

さらに、回答企業・施設の業種としては「卸売・小売」が 23.1%で最も多く、次いで「医療業（病院・医院・クリニックなど）」が 15.5%、「社会保険・社会福祉・介護事業」が 11.1%である。

回答企業・施設の従業員数（正規社員・職員）は、「100名～500名未満」が 31.4%で最も多く、次いで「50名未満」が 19.8%、「500名～1,000名未満」が 16.3%と、100名以上の比較的規模が大きい企業・施設が多くみられる。

#### (a) アンケート調査の結果（【資料 15】を参照）

##### ①社会的必要性

愛知淑徳大学大学院「健康栄養科学研究科 健康栄養科学専攻（修士課程）」を修了した人材の社会的必要性については、90.2%（459 企業・施設中、414 企業・施設）が「必要だと思う」と回答しており、多くの企業・施設からこれからの社会にとって必要な人材であると捉えられていることがうかがえる。

##### ②採用想定人数

愛知淑徳大学大学院「健康栄養科学研究科 健康栄養科学専攻（修士課程）」修了生を「採用したいと思う」と答えた企業・施設は、52.1%（459 企業・施設中、239 企業・施設）である。

また、愛知淑徳大学大学院「健康栄養科学研究科 健康栄養科学専攻（修士課程）」の修了生を「採用したいと思う」と答えた 239 企業・施設へ、愛知淑徳大学大学院「健康栄養科学研究科 健康栄養科学専攻（修士課程）」修了生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は 319 人で、予定している入学定員数 6 人を大きく上回っており、このことから、安定した人材需要があることがうかがえる。

#### 【属性別】

##### (1) 本拠地別

「東海」エリアに本社がある企業・施設からの採用意向は、50.0%（364 企業・施設中、182 企業・施設）である。採用想定人数の合計は 205 人で、予定している入学定員数 6 人を大きく上回っている。愛知淑徳大学大学院の所在地である「愛知県」に本社がある企業・施設からの採用意向は、49.6%（282 企業・施設中、140 企業・施設）である。採用想定人数の合計は 164 人で、予定している入学定員数 6 人を大きく上回っている。

##### (2) 業種別

多くの業種で入学定員以上の採用意向が見込まれる。特に「医療業（病院・医院・クリニックなど）」、「サービス業（他に分類されないもの）」、「卸売・小売業」の企業・施設ではいずれも予定している入学定員数 6 人を大きく上回る採用意向がみられる。

(3) 従業員数別

従業員数に関わらず、予定している入学定員数 6 人を上回る採用意向がみられる。

(4) 学問分野別

愛知淑徳大学大学院「健康栄養科学研究科 健康栄養科学専攻（修士課程）」の学びに関連のある「食物・栄養学・食品科学」を学んだ学生を採用したいと回答した企業・施設からの採用意向は 75.3%（93 企業・施設中、70 企業・施設）である。採用想定人数の合計は 109 人で、予定している入学定員数 6 人を大きく上回っている。同じく「健康栄養科学専攻（修士課程）」の学びに関連のある「スポーツ・体育・健康科学」を学んだ学生を採用したいと回答した企業・施設からの採用意向は 50.0%（54 企業・施設中、27 企業・施設）である。採用想定人数の合計は 47 人で、予定している入学定員数 6 人を大きく上回っている。

(5) 魅力度別

愛知淑徳大学大学院「健康栄養科学研究科 健康栄養科学専攻（修士課程）」の特色に魅力を感じている企業・施設からの採用意向は 69.3%（296 企業・施設中、205 企業・施設）である。採用想定人数の合計は 281 人で、予定している入学定員数 6 人を大きく上回っている。

(6) 社会的必要性別

愛知淑徳大学大学院「健康栄養科学研究科 健康栄養科学専攻（修士課程）」が社会的に「必要だと思う」と回答した企業・施設からの採用意向は 56.8%（414 企業・施設中、235 企業・施設）である。採用想定人数の合計は 315 人で、予定している入学定員数 6 人を大きく上回っている。

(7) 従業員数別

従業員数に関わらず、予定している入学定員数 6 人を上回る採用意向がみられる。

(8) 本年度の採用予定数別

本年度の採用予定を「増やす」と回答した企業・施設からの採用意向は 59.3%（123 企業・施設中、73 企業・施設）である。採用想定人数の合計は 113 人で、予定している入学定員数 6 人を大きく上回っている。採用予定を「昨年度並み」と回答した企業・施設からの採用意向は 55.9%（245 企業・施設中、137 企業・施設）である。採用想定人数の合計は 178 人で、予定している入学定員数 6 人を大きく上回っている。

(9) 採用したい学問分野別

愛知淑徳大学大学院「健康栄養科学研究科 健康栄養科学専攻（修士課程）」の学びに関連のある「食物・栄養学・食品科学」を学んだ学生を採用したいと回答した企業・施設からの採用意向は 75.3%（93 企業・施設中、70 企業・施設）である。採用想定人数の合計は 109 人で、予定している入学定員数 6 人を大きく上回っている。同じく「健康栄養科学専攻（修士課程）」の学びに関連のある「スポーツ・体育・健康科学」を学んだ学生を採用したいと回答した企業・施設からの採用意向は 50.0%（54 企業・施設中、27 企業・施設）である。採用想定人数の合計は 47 人で、予定している入学定員数 6 人を大きく上回っている。

(b) アンケート調査の概要（【資料 15】を参照）

I. 調査目的

2024 年 4 月予定の愛知淑徳大学大学院「健康栄養科学研究科（修士課程）」（仮称）の設置に関する調査に関して、企業・施設のニーズを把握する。

## II. 調査対象

本研究科修士の就職先として想定される企業・医療施設等の採用担当者

- 1) 調査エリア：愛知県、岐阜県、三重県、東京都、その他
- 2) 依頼数：1,842 企業・施設（有効回収数：459 企業・施設 [24.9%]）
- 3) 調査期間：令和4年（2022年）6月20日（月）～7月29日
- 4) 調査方法：郵送調査

## III. 調査実施期間

株式会社進研アド

## IV. アンケート調査の結果

- 1) 人事採用への関与度
  - 「採用の決裁権があり、選考に関わっている」：28.1%
  - 「採用の決裁権はないが、選考に関わっている」：58.4%（合計：86.5%）
- 2) 本社（本部）／病院所在地
  - 愛知県：61.4% 東京都：10.0% 岐阜県：7.2% 三重県：6.1% など
- 3) 業種
  - 卸売・小売業：23.1% 医療業（病院・医院・クリニックなど）：15.5%
  - 社会保険・社会福祉・介護事業：11.1% など
- 4) 従業員数
  - 100名～500名未満：31.4% 50名未満：19.8% 500名～1,000名未満：16.3%
  - 1,000名～5,000名未満：16.1% など
- 5) 正規社員・職員の平均採用人数
  - 1名～5名未満：23.7% 10名～20名未満：17.6% 5名～10名未満：15.3%
  - 50名～100名未満：13.9% など
- 6) 本年度の採用予定数
  - 「増やす」：26.8% 「昨年度並み」：53.4% など
- 7) 採用したい学問分野
  - 学んだ学問分野にはこだわらない：42.7% 食物・栄養学・食品科学：20.3%
  - 経済・経営・商学：20.3% 医療技術・リハビリテーション学：16.3%
  - 看護・保健学：16.3% 工学：16.1% など
- 8) 愛知淑徳大学大学院「健康栄養科学研究科（修士課程）」の特色に対する魅力度
  - 「とても魅力を感じる」：17.6%
  - 「ある程度魅力を感じる」：46.8%（魅力度：64.5%）
- 9) 愛知淑徳大学大学院「健康栄養科学研究科 健康栄養科学専攻（修士課程）」の社会的必要性
  - 「必要だと思う」：90.2%（414 企業・施設）
- 10) 愛知淑徳大学大学院「健康栄養科学研究科 健康栄養科学専攻（修士課程）」  
修士生に対する採用意向
  - 「採用したいと思う」：52.1%（239 企業・施設）
- 11) 愛知淑徳大学大学院「健康栄養科学研究科 健康栄養科学専攻（修士課程）」  
修士生の毎年の採用想定人数
  - 1名：65.7%（157 企業・施設） 2名：13.8%（33 企業・施設）
  - 3名：2.9%（7 企業・施設） 5～9名：2.1%（5 企業・施設）
  - 10名以上：2.1%（5 企業・施設）

- 上記に示した毎年の採用想定人数を「5～9名」=5名、「10名以上」=10名と代入算出した場合の「毎年の採用想定人数」は、319名（207施設・企業）
- 12) 愛知淑徳大学大学院「健康栄養科学研究科 健康栄養科学専攻（修士課程）」  
修了生に対する採用意向／採用想定人数（全体／属性別）

**【全体】**

「健康栄養科学研究科 健康栄養科学専攻（修士課程）修了生を採用したいと思う」：52.1%（459企業・施設中、239企業・施設）で採用想定人数の合計は319人

**【本社所在地別】**

「東海」：50.0% 「愛知県」：49.6%

⇒ 「東海」エリアに本社がある企業・施設からの採用意向は、50.0%（364企業・施設中、182企業・施設）で採用想定人数の合計は、205人  
「愛知県」に本社がある企業・施設からの採用意向は、49.6%（282企業・施設中、140企業・施設）で採用想定人数の合計は、164人

**【業種別】**

⇒ 多くの業種で入学定員以上の採用意向あり（特に「医療業（病院・医院・クリニックなど）」、「サービス業（他に分類されないもの）」、「卸売・小売業」が多い）

**【従業員数別】**

⇒ 従業員数に関わらず、入学定員数6人を上回る採用意向あり

**【本年度の採用予定数別】**

「増やす」：59.3% 「昨年並み」：55.9%

⇒ 「増やす」と回答した企業・施設からの採用意向は、59.3%（123企業・施設中、73企業・施設）で採用想定人数の合計は、113人  
「昨年並み」と回答した企業・施設からの採用意向は、55.9%（245企業・施設中、137企業・施設）で採用想定人数の合計は、178人

**【採用したい学問分野別】**

「食物・栄養学・食品科学」を学んだ学生を採用したい：75.3%

「スポーツ・体育・健康科学」を学んだ学生を採用したい：50.0%

⇒ 「食物・栄養学・食品科学」と回答した企業・施設からの採用意向は、75.3%（93企業・施設中、70企業・施設）で採用想定人数の合計は、109人  
「スポーツ・体育・健康科学」と回答した企業・施設からの採用意向は、50.0%（54企業・施設中、27企業・施設）で採用想定人数の合計は、47人

**【健康栄養科学研究科（修士課程）の特色に対する魅力区別】**

「魅力あり」：69.3%（296企業・施設中、205企業・施設）で採用想定人数の合計は281人

**【健康栄養科学研究科 健康栄養科学専攻（修士課程）の社会的必要性別】**

「必要だと思う」：56.8%（414企業・施設中、235企業・施設）で採用想定人数の合計は315人

以上の調査結果から、健康栄養科学研究科に対する需要があることは客観的に証明されるものと考えられ、本研究科修了生の進路は十分に確保できるものと考えている。

なお、本研究科の入学生には社会人も想定しており、現職のまま入学することも考えられる。そのため、社会人の多くは修了後も引き続き現職に従事することが考えられる。

以上